



ルネサスが  
双葉

- 広告 ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中！ - NEC
- 広告 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供: 日立製作所
- 広告 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に！運用コストも20%削減 富士通
- 広告 特集: ハイビジョン並み映像で円滑な会議を TV会議システム/日立ハイテク

[ビジネス: ネット時評\(日経デジタルコアより\) 過去記事](#)

[>> 過去記事一覧](#)

## ペヤングとアーカイブ(中村 伊知哉)



まるか食品株式会社。それは前橋から足利に向かう国道50号線沿い、伊勢崎市、お風呂屋さんの裏側にあった。「四角いかおっ、まるやかー」のCMでおなじみ「ペヤング・ソース焼きそば」の製造元である。おなじみではないか。古いCMだし、関東限定だし。

### 爆発するペヤング情報

7年ほど前のこと、役所で行革を担当していたころ、夜食に四角い顔ばかり食べていて、ふと「ペヤング」というのが何を意味するのか気になって、気になって、仕事が手につかなくなってしまった私は、Yahoo!で検索してみた。

「0件がデータベースに存在しました」と出た。当時ネット界から無視されていたペヤング。昨日また検索してみた。10929件(6月22日現在)。おおっ。ペヤング情報が爆発している。ペヤング愛好会までできているではないか。この7年の間に、多くの人々の手により、ペヤング・ネットアーカイブが形作られたのであるなあ。

ここまで足を運んだのは、四角い箱の製造元を一目見たかったから、というだけではない。遠い土地で戦闘が続くなか、むかし近いところで繰り広げられた戦いのあとをたどってみようと思ったからだ。信玄と謙信の足跡を追い、数日かけて、甲府や長野などクルマでグルグル回ってみた。風林火山の湯飲みや、毘の字を染めたのれんを買ったりしただけなのだが。

合計1500km。歳をとると、数日がかりでもこたえる。しかし10年前、パリに住んでいたころには1日仕事だった。パリを東に向かってストラズブル経由でドイツを横断、チェコ国境まで。あるいは、フィレンツェからモナコ、ニースを経て北上、パリまで。時速150km10時間の運転、できない仕事ではない。今はもう無理だ。

### 金沢のレコード・アーカイブ

1日のできる仕事量のことには思いをはせつつ、金沢までやって来た。金沢工業大学が構築しているポップ・ミュージックのアーカイブを見学した。14万枚のレコードが蓄積されている。塩化ビニールのLPが10万枚弱。アナログが中心だ。

そして過半数が洋楽である。1988年ごろ、レコードのジャケットをアートとして残そうというつもりで保存を始めたところ、その磁場に引き込まれるようにあちこちから集まるようになり、今もなお増え続けているのだという。金沢工大では、このアーカイブを外部にもオープンに利用可能としており、

ウェブサイトでも検索ができるようにしている。

14万枚。1日10枚聴いたとして、40年近くかかる。聴き続けても死ぬまでに聴き終えることができるかどうか。こちらの聴く体力も衰えるし、しかもこれからもレコードは増え続けるというのだから。だが、このアーカイブを管理する二反田さんは言う。「放っておくと捨てられる文化。それがポップカルチャー。そこに価値をみつけて、残す」。そう、消えゆくものを残すこと、それは人類の使命だ。ひとり1日の仕事はたかが知れている。みんなでつながって残すものだろう。

### ポップカルチャー・アーカイブ構想

産学官連携の「ポップカルチャー・アーカイブ」プロジェクトに私も参加している。うたかたのコンテンツをまるごと遺していく方法論を検討している。

PCの中、ネットの上で、時々刻々と生まれ、変化し、流れ行くコンテンツを残していく作業。それはアナログ時代の図書館や博物館とは設計思想を変えなければなるまい。分散し、連結した、いわばアーカイブ列島をプロデュースする展開となるはずだ。

先ごろ亡くなった米レーガン元大統領の名はワシントンの空港として残る。フランスの戦争の英雄ドゴールがパリの空港名であるのと同じだ。アメリカは今も軍事国家なのだろう。フランスはその後、ポンピドーが現代美術のセンター名となり、ミッテランは巨大な図書館の名となった。元首たるもの後世に残すべきは文化なりという国の矜持であろう。

では、日本の為政者は何を後世に伝えてくれるのだろうか。年金？ いや、コイズミ・ポップカルチャー・アーカイブ！ 誰も望まないだろうが、政治サイドはジョークでいいからそのくらいのメッセージを発してもよからう。

さて、問題は「ペヤング」だ。「ペヤングというのは、ペア・ヤングの略で、ヤングがペアで食べることを想定して開発された商品なのです」。へー。へー。へー。7年前、ネットで調べがつかずショッポーンとしている私をみかねた優秀な部下が、四角い顔のパッケージに記された「まるか食品株式会社」に電話したところ、受付嬢が教えてくれたのだ。

すばらしい。中央官庁を騙る怪しげな電話にも受付嬢が優しく明快に回答してくれる。欧米ならタライ回しだろう。こうした国民レベルのコミュニケーション力の高さがニッポンの創造力の源だと悟った一件であった。私その後こどもの表現力を底上げする活動に携わることとなるきっかけの一つである。

#### -筆者紹介-

中村 伊知哉(なかむら いちや)  
スタンフォード日本センター研究所長

#### 略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従





事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。



## NIKKEI NET

### 新製品

- [パソコン関連](#)
- [ソフト&サービス](#)
- [自動車](#)
- [AV&通信](#)
- [生活](#)
- [ホビー&レジャー](#)

---

(C) 2006 Nihon Keizai Shimbun, Inc. All rights reserved.